第59回熊本県保育研究大会　玉名大会　　　　　　　　　参加者　５０名

|  |
| --- |
| **【第２分科会】テーマ：子どもの発達と環境（３歳以上児）**　近年、子ども家庭福祉を取り巻く国の動向が大きく動く一方で、子どもと家庭の置かれている環境も多様化している。保育所を利用する子どもの保育についても一人ひとりの状況やニーズを踏まえた個別の対応がより重要になってきている。本分科会は、「養護と教育」を一体化に提供する保育所保育の特性を生かした「子どもの発達保障」に関する実践・研究を通して協議を行う。 |

座長：切通　洋子（大道保育園）

助言者：柴田　賢一（尚絅大学短期大学部　准教授）

意見発表者：横井　絢子（月乃輪保育園）、山﨑　美穂（あそか保育園）、福田　文代（長洲こどもの海保育園）

幹事：前濱　和子（睦合保育所）

記録：中山　博大朗（大野保育所）、大森　美幸（豊水保育所）

1. 発表者　横井　絢子

テーマ「育ちあう子ども達

　　　　～自信を持たせるための保育者の関わり～」

＜考察＞

　I君に対する保育士の関わりを安心できるものにし、友達からも認められることでIはより安心して気持ちを表現できるようになり、他児はIの気持ちを考えるようになり相乗効果があった。この活動の結果、このクラスには周りに合わせるという協調性がある反面、周りを気にして行動できないという自信のなさがあることが見えてきた。そこで、引き続き一人ひとりが輝ける機会を設けそれぞれが自信を持てるよう環境を考慮していくことが今後の課題である。

＜助言内容＞

　子どもの理解なくして保育は進まない。本件は一人ひとりの子どもの姿を保育士が丁寧に把握し、それが的確だったがゆえの実践だった。洞察の良さが保育に表れていた。次のステップとして、一人ひとりの成長を感じ取る力、子どもの成長、変化の様子を言語化していくことが必要である。しかし、それらは容易なことではないので、園内研修等で一人ひとりの保育士の力を合わせて子どもの理解を高めることが求められる。

1. 発表者　山崎　美穂

テーマ「地域の人々との交流体験の中で育ちゆく子どもたち～さつま芋を育てよう～」

＜考察＞

　さつま芋を育てる体験を通して子ども達に思いやりのある優しい心が育っている姿が見られ、友達と楽しんで協力することの楽しさを学び、さらに親子のコミュニケーションもしっかりとれるようになった。又、老人会の方々からは苗植えや収穫の時期などのいろいろなアドバイスを頂き、子どもたちのためにいつでも協力して下さっている。

　今後は、野菜作りを通して子どもたちが協力し達成感や満足感を味わえる環境整備をし、老人会の負担軽減に努める必要がある。

＜助言内容＞

　子どもが育つ思いやりの姿は本文より読み取れた。子どもたちにとっては、植物の成長に関して科学的・物理的なものや目に見えないものの理解が難しいところもある。カリキュラムの構成原理を意識して保育計画を立てることが次に向かっての課題である。

３．発表者　福田　文代

　　テーマ「『つながり』

～地域との交流を通して～」

＜考察＞

　「地域の発展なくして本園の発展なし」という園の信条のもと、地域との交流は「生きる力」の基礎を身につけ、たくましく心豊かに育つ役割を持っていると考える。地域との交流で地域の伝統行事に参加し次世代に伝承していく「つながり」、地域にはまだ保護者が知らない行事があることを園児を通して知らせるという「つながり」など、地域との交流は人と人とをつなぐ大きな役割を果たしている。これからも様々な意見に耳を傾けながら時代に合った交流を行い「つながり」を深めていきたいと考える。

＜助言内容＞

　いろいろな人と関わることが地域交流。地域の中で子どもが育つということを地域の人がどう捉えているのか。単に地域との交流に参加するのではなく、それぞれの人がどう捉えていくのか。子どもも地域の人も地域の中で関わることが重要である。

1. グループ討議

討議の柱

（１）子どもと子どもの関わり

（２）地域と保育園の関わり

（３）その間に入る保育者

討議のまとめ

・高齢者施設等において高齢者と関わる機会が少ないので、子どもたちが高齢者を怖がる。逆にその回数が多いところは、子どもたちが交流を楽しみにしている。また、施設や学校と交流を持つ場合は、まず最初に（子どもたちが関わる前に）先方と保育士との交流を持つことで、お互いのハードルを取り除いていくことが必要である。

・地域との交流では、若手農家の方との関わりができて子どもたちも楽しめて内容としても良かったという園もあった。

1. まとめ、その他

　保育所・保育士のあり方を考える必要があるときにきている今日、保育士には社会資源と子どもたちをつなぐコーディネーターとしての役割が求められている。

　子どもと関わる上で、子どもの理解が大前提であり、そこからスタートすべきである。子どもの理解を深めるためには、園内研修等での保育士のスキルアップが必要である。